

第3回 TAITO フューチャースクール検討委員会

開催日	令和6年12月26日(木) 午後4時00分から午後5時40分まで
場所	台東区役所 6階 教育委員会室
出席委員	高橋委員、垣野委員、坂田委員、平柳委員、田中委員、甲賀教諭(渡邊委員代理)、前田委員、山田委員、川田委員、増嶋委員
オブザーバー	本間副校長
欠席委員	宮脇委員
配布資料	① 区立学校の現状について ② TAITO フューチャースクール検討委員会 先進校視察報告 ③ モデル校報告資料 ④ TAITO フューチャースクールの実現に向けた方向性(案) ⑤ TAITO フューチャースクール R7年間スケジュール(案)

■議事概要

1. 開会

2. 議事

(1)【事務局報告】ア 区立学校の現状について

資料①について、増嶋委員より説明

- ・ 区立学校の ICT の現状と課題を報告
 - ICT リーダー育成講座を実施し、Teams 等を活用したオンライン研修や授業実践を行った。
 - 国の「GIGAスクール構想の下での校務 DX チェックリスト」による自己点検では、保護者への情報配信システムは導入済みだが、オンライン面談や会議のハイブリッド化は未対応の学校が多い。
 - 教職員の ICT ツールへの理解促進と、校務・研修での ICT 活用促進が課題である。

【事務局報告】イ 先進校視察について

資料②について、増嶋委員より説明

- ・ 豊島区立池袋本町小学校・池袋中学校を視察。
- ・ 施設の特徴
 - 校舎構造
中心に小中の共有施設、左右に小中学校エリアを分離。職員室は小中合同(フリーアドレスデスク採用)。
 - 教室設備
小中共通で、天吊りプロジェクターを設置。
- ・ 視察時における授業での ICT 活用は、限定的だった。
- ・ 視察を踏まえた本区の今後の課題
 - 教職員の環境活用能力の向上
 - 学校施設全体を活用した柔軟な学習空間の創造
 - 新しい働き方を見据えた環境整備

- ・ **【甲賀代理】**
本校の根本的な課題は生徒の生活指導にある。特にオープンスペースなどの開放的な場所では、生徒が落ち着きを失い、行動が活発化する傾向がある。
- ・ **【垣野副委員長】**
オープンスペースの効果的活用には適切なサイズ設定とスペースの共有が重要。学年による使用ニーズは異なるが、学級数変動により画一的設計となる現状がある。
- ・ **【田中委員】**
上野小学校の2～4階には普通教室とオープンスペースがあり、階により広さが異なる。1年生には広すぎる傾向があり、2年生以上で活用が増える。
- ・ **【坂田委員】**
オープンスペースは発達段階に応じた活用が重要で、特に自主性が育つ高学年での効果が期待される。ただし、小学校での具体的な活用方法については検討が必要。
- ・ **【高橋委員長】**
多様な生徒に対応するため、オープンスペースと個別学習目標の設定が重要。ICTを活用した柔軟な学習環境により、不登校の減少や生徒の自主性向上などの成果が見られている。

(2)【モデル校報告】ア Google Workspace について

資料③について、田中委員より説明

- ・ 上野小学校では特に「自己選択・自己決定できる自己調整型の学び」と「自律的・自治的な活動」を重視し、オープンスペースを活用した多様な学習形態を実現。
- ・ 教室の形態も従来の一斉指導型から柔軟な学習空間へと変化し、児童が主体的に学べる環境を整備している。
- ・ Google Workspace を導入し、教職員間での情報共有や校務のデジタル化を推進している。
- ・ 一人一台端末の活用では、子供の問題解決能力育成を重視。自己調整による学びと一斉指導のバランスを保ちながら、指導にあたっている。
- ・ **【垣野副委員長】**
自己調整型の学びでは、学習の場所・相手・方法などを児童・生徒が自分で選択する必要がある。この過程で、責任ある選択を通じて社会で活躍できる力が育つ。富山県の芝園小学校では、1年生から段階的に空間活用や学び方を練習し、4年生頃には自己選択・自走が可能になるよう指導している。
- ・ **【高橋委員長】**
従来の一方向的な説明型授業から、生徒が実際に取り組んでから説明を受ける形式への転換が必要。教師は個々の生徒に寄り添い、状況に応じた柔軟な指導が求められる。
また、Google ツールの活用について、チャットを中心とした情報共有が効果的。URL やアクセス権の設定で管理し、メール・カレンダー・To-Do の連携で業務効率化が可能。

(3)【事務局提案】ア TAITO フューチャースクールのコンセプトについて

資料④について、増嶋委員より説明

- ・ TAITO フューチャースクールのコンセプトについて、3つの「I」を軸に修正を行った。第1の「I」は子供と教師を主役とし、第2の「I」はICTを活用した個別最適・協働的な学び、第3の「I」は探究(Inquiry)による学び合いを示す。これらを基に、8つの取組の方向性を示し、今後モデル校での実践を通じて具

体策を検討していく。

- ・ **【高橋委員長】**
必要に応じて ICT を導入すべき。中教審の答申ではデジタル化が強調され、学習指導要領の検討においても情報活用能力やデジタルという言葉が頻出している。
- ・ **【田中委員】**
教職員の意識改革は重要だが、保護者や地域への理解促進が課題となっている。教員は自身が受けた授業を再現しがちで、保護者も従来型の授業を期待している。フューチャースクールの学びのコンセプトは理解されても、実際の授業との違いに戸惑いがある。これからの時代に必要な力は単なる知識の再生だけではないことを、保護者に伝えていく必要がある。
- ・ **【坂田委員】**
対面授業ではペーパーテストによる評価が一般的だが、新しい授業スタイルにおける評価方法について、既存の方法でよいのか、もしくは新たな評価方法を検討する必要があるのか。
- ・ **【高橋委員長】**
教育評価方法の転換について、従来の紙テスト中心から AIドリルやプレゼンテーション評価への移行が進んでいる。AI ドリル導入で定期テストを削減し、教員の負担軽減と授業改善に時間を充てる動きがある。大学入試も総合型選抜が増加。課題として、教師の意識改革と保護者への説明方法があり、保護者への体験機会提供が効果的との意見が出た。

【事務局提案】イ 来年度のスケジュールについて

資料⑤について、増嶋委員より説明

- ・ 本事業は令和 6 年度から 8 年度までの 3 年間で実施。来年度は 2 年目となり、中間報告に向けて検討委員会を 4 回開催予定。視察先として愛知県春日井市の高森台中学校や近隣自治体を検討中。モデル校は上野小学校を継続し、中学校は駒形中学校が内定。
- ・ **【甲賀代理】**
既存の 3 つの「I」に加え、4 つ目の「I」として Independence(主体性)を追加し、本校の主体性とフューチャースクールの概念を組み合わせた形での研究発表を視野に入れていく

3. 閉会

- ・ **【高橋委員長】**
検討委員会の閉会にあたり、成功事例を区内全域に広げていくことの重要性が確認された。デジタルトランスフォーメーションにおいては、個別の問題解決だけでなく、理念に立ち返って問題の仕組み自体の必要性を検討することが重要である。